





# 談話会つうしん

東京蜘蛛談話会 NO. 53

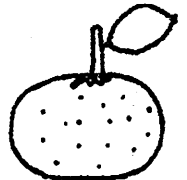
もうすぐ節分。寒さも一段と厳しくなりますが、皆様の所  
はいかがですか。クモ達も、この冬を乗り越える為に色々な  
方法で越冬していることでしょう。早く春がくるといいです  
ね。

 新入会員の方 よろしく

・ 板倉泰弘 〒156 東京都世田谷区桜 3-21-11  
桜井様方

 住所変更の方です

野戸章 〒567 茨木市藤の里 1-8-1012



## 2月の採集・観察会のお知らせ

場所： 神奈川県高麗山， 2月16日

集合場所： 国鉄 大磯駅

時間： AM 10:00

採集・観察会の場所については通信 50 号を御覧下さい。  
お問い合わせは下記へ

池田博明 TEL 0465(82)4466



# 神奈川県の小池牧子

さんより

## 本の紹介です

「私が取手<sup>トリテ</sup>という小さな町に住んでいたとき、私の顔の半分が腫れ、ポツポツと原因不明の膿<sup>う</sup>みの玉が一銭貨幣<sup>せんげ</sup>ぐらいの中に点在し、<sup>お</sup>毛も痛みはないのである。ちょうど中村地平と真杉静枝が遊びに来て、そのとき真杉静枝が蜘蛛が巣をかけたんじゃないのしら、と言ったので、私は<sup>あ</sup>歴々<sup>れき</sup>と思い出した。まさしく蜘蛛が巣をかけたのである。私は深夜にふと目がさめて、天井と私の顔にはられた蜘蛛の巣を払いのけたのであった。

上に挙げた文章は坂口安吾の『いずこへ』の中から抜き出したものです。このあとには、蜘蛛の巣の美しいことから蜘蛛の巣のような妖婦<sup>あやめ</sup>というものについてと話は続きます。

それにしても、人間<sup>ひと</sup>の顔に蜘蛛の巣がかかるなんて、何て奇妙な事を著し人だろうと思、ていましたが、杉森久英著『小説 坂口安吾』によると、この話は安吾自身のエピソードとして載っているので驚きました。

(次のページへつづく)

まさしく実話だというのですから。去年の夏、安吾ゆかりの地ということで新潟の山奥の温泉町で、没後三十周年記念の展示があり、見に行きましたに、まさか、そんな仙人みたいな人とは、そのときは知らずにいきました。

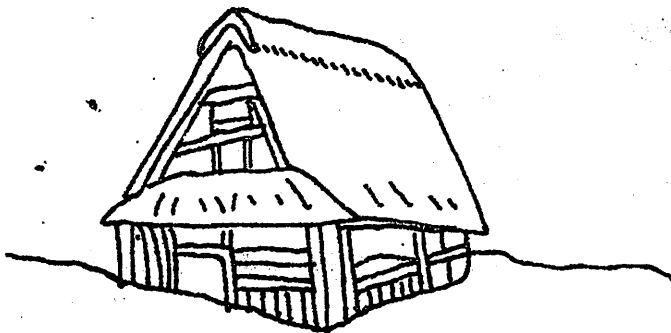
まさか安吾と同じような体験をされた方はいらっしやらないと思いますが、一体、どんな蜘蛛に、たか想像つきますか？一度見てみにいものですね。さて、そのとき私たちも、真杉女史のように直感できるでしょうか？彼女の<sup>インスピレーション</sup>靈感にも驚きです。

興味湧いた方は是非ご一読を。どちらも文庫本で出ていますから、それを紹介致します。

新潮文庫『白痴』 坂口安吾著

河出文庫『小説 坂口安吾』 杉森久英著

以上、“蜘蛛の出てくる文学”第二弾紹介でした。



# 会計報告 1986年1月20日現在

## 会費受領報告(敬称略)

### 60年度

林秀幸, 中井恒夫, 板倉泰弘, 伊佐地利行, 大野留子,  
大村昌久, 成合智美

### 61年度

相葉茂代, 熊田憲一, 熊田理恵, 佐藤幸子, 板倉泰弘,  
菅波洋平, 野戸華, 松田まゆみ, 藤井靖浩



..... 会計についてのお問い合わせ・御質問は下記へ  
〒226 横浜市緑区池辺町2947

井上房枝 TEL 045(941)3121

〒211 川崎市幸区小倉1061

小池牧子 TEL 044(588)5422

# 秩父の洞窟にいたクモ

鈴木清浩

昨年12月28日と29日の二日間、私は、藤原公の鳩川に、熊川に、佐藤幸子さん、井上エシと共に、秩父の鐘乳洞にぞりた。鐘乳洞をぬらした日は、寒い外は洞内のほうがあたたかく麗々たるということもひとつの理由がありました。

12月28日は、大輪川付近にあり、神庭(かたか)の鐘乳洞にいきました。どうして、神庭と命名されたのか、その由来はわかりませんが、神様の庭とします。たいてい、神様は静いところが好きなのにもおもしろい。

洞内は、それほど広くなく、中は残念なことに乾燥してありました。そのため、クモを日陰とした他動物も、たいてい、少なかった。

採集したものは、入口付近でオビシグモ、マシグモ sp. 洞内にぞりたものは、マシグモの仲間でした。私がはきかいた足跡にも、やはり、マシグモ、マシグモの洞には感動しました。この世、アソビシグモ、コナグモ、白とがみられました。

12月29日は、大輪から、さらに中どかほど奥に入ったところにある、仙石山の鐘乳洞にいきました。遊歩道入口ともがかりていましたが、30分に、毎のゆきもあり、他の人は、みられませんでした。落ち葉と小みゆつ、数10分のほりつと、又と仙石山の鐘乳洞がみられました。

この鐘乳洞は、たいてい入ると、1分も神庭とちがって、洞内に木も流れており、しめた環境のところもありました。洞内で、私たちがはじめてみつけたのは、サンロウドヨウグモの各の成体でした。長くセンターのような糸1歩脚、そして、立派な、腹脚の触肢、あごやがは、腹脚の斑紋が、印象的でした。その他にも、30分ほどステージのサンロウドヨウグモがみられました。幼体から、あごや(1)卵のうを保護しているメスまで。仙石山では、サンロウドヨウグモの成体は白いかとみえくすし、サンロウが、たいてい多くいました。また、カスドウでも、いろいろステージのものも採集していました。その数の多さ、发育段階のちがいに、おもしろかったです。

入口付近では、コナシグモ、アソビグモの仲間、コナシグモの仲間もみられました。コナシグモ sp. もいました。

また、洞窟に近い、静かな鐘乳洞では、ヨリメグモが、たいていよくみられました。

どうして、洞窟ごとに、異なる種とかが、かの成体種がまよいて、その種が、その洞窟内では、専らいるようにもみえました。

採集記録は、Kishidaiaに報告する予定です。

皆様も、機会がございましたら、一度、ぜひ、世界と探検してみたいです。



ある絵はがきより

事務局より

KLSHIDAIA および談話会  
通信の原稿を募集しております。

会員の納入は御  
早めに!

・1986年の談話会年間活動  
計画は、次号の通信で報告  
いたします。



事務局

松浦祐司 TEL 03(392)9962  
〒167 杉並区荻窪3-7-6~207

編集

嶋田順一 TEL 04297(3)3022  
〒357 飯能市本町5-4

通信編集

鈴木勝浩  
〒344-01 北葛飾郡松伏町松伏  
3.385

談話会通信 NO. 53  
編集：鈴木勝浩

1986年2月1日印刷・発行  
東京蜘蛛談話会